

野球人生集大成 悔いなく

×歴史を刻め

マツゲン箕島硬式野球部



社会人野球
日本選手権

④

選手紹介

岸翔太選手(26)



全日本クラブ野球選手権の試合で打席に立つ岸翔太選手—埼玉県所沢市のメットライフドームで8月29日

会)で再びプロを目指す道だった。練習が休みの日でも球場に1人で行き、黙々とバットを振った。中軸を担い続ける責任、プロになりたいという気持ちを支えた。それから5年。今年春の都市対抗野球大会を最

後のアピールの場と考えていたが、チームは予選で敗退。「プロになりた」という炎が小さくなった。父親や高校時代の恩師に相談し、悩み抜いたが、一度しぼんだ気持ちは戻らず、「プロという目標

込めたが、これからは難しい」と感じ、引退する覚悟を決めた。大きなけがもなく約20年間、野球に打ち込めたのは「丈夫に産んでくれた両親のおかげ」と感謝する。日本選手権は最後の舞台。「4番の意地もある。試合では得意の打撃で結果を残す」と話し、バットを振り続けている。【後藤奈緒】

—おわり

大阪ガスから移籍して5年。1年目からチームの主軸を任された。初球からフルスイングする打撃で、チームに勢いを与えてきたが、今年度で約20年間の野球人生に区切りをつける。最後の大舞台、日本選手権初戦の29日は、27歳の誕生日。「チームの歴史的1勝と自分のバースデー勝利のために悔いが残らないようにやりきる」

高校、大阪ガスでプロを目指したが、かなわなかった。大阪ガスに戦力外通告を受けた時が一つの人生の岐路。まだプロを目指すか、社員として残るか。選んだのは、声をかけてくれた西川忠宏監督(58)のマツゲン箕島硬式野球部(当時は和歌山箕島球友

京都府出身。園児の時に2歳年上の兄、遼太さん(28)の後を追って、